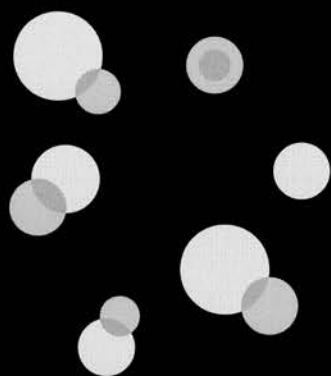




JSABS
Japan Society of Applied Business Studies

日本ビジネス実務学会

会報 No.66

2017年4月1日発行

発行／日本ビジネス実務学会広報委員会

事務局／〒004-8602 札幌市清田区清田4条1丁目4-1 札幌国際大学内

URL : <http://jsabs.hs.plala.or.jp> / e-mail: business.jitumu@gmail.com

ビジネス実務教育は『働く個々人の能力開発』

会長 椿 明美 (札幌国際大学短期大学部)



ビジネス実務教育は、大学から企業への移行の橋渡し役として、短期的に有効である。短期的というのは、この教育を受けた学生は、ビジネス社会や企業組織の知識と職務遂行の初歩的スキルは身につけているため、企業への移行時に他の新入社員より早く組織適応ができ滑り出しが良い。卒業生ヒアリングなどから得た情報でも、教育は有効に働いていると考えられる。しかし、その知識や能力を常に高度化しなければ、変化の激しい職場で生き延びることは難しい。そういう意味で短期的という。

そこで、今、高等教育には先が見えない時代を生き抜く力として、問題を解決する能力の育成が求められ、課題解決型授業が盛んに導入されている。この学会の生みの親である、一般財団法人全国大学実務教育協会の資格には、それらがすでに組み込まれているが、ビジネス実務能力に加えて課題を解決していく力を備えることで、これからの時代を乗り切る人材を育成しようとするものと捉える。

この課題解決型授業は、職場で協働するため、チームで合意形成をし、チームの中での自分の役割をどのように遂行していくかを、実践を通して学んで行く。今では多くの大学で取り組んでいるが、ビジネス実務教育に、これが付加されることで教育効果を高める点が特徴となる。働く人としての基礎知識と実務能力、そして課題解決能力を身につけ企業社会において働きながら学びを継続し、自己を高めエンプロイアビリティの高い人材になって行く。同時に個人生活を充実して生きていけることを望んだ教育である。

さて、そのビジネス実務教育を受けた学生とそうではない学生との差異について、在学時の就職内定までの情報はあると思うが、卒業後のキャリアに関する追跡調査は多くはない。ビジネス実務教育を受けた学生の在学時のエンゲージメント（学習や活動にどのくらい熱心に取り組んでいたか）や卒業時の知識能力と、卒業後のキャリア（ポジション、所得、転職等）の関係など、教育のその後を検証する研究は余り見当たらない。教育の質保証として、PDCAを回すとすると追跡調査をするしかないが、ビジネス実務教育を受けた学生と受けなかった学生のキャリア形成に違いがあるのか、ないのか、ビジネス実務教育の長期的効用、それが見えたなら興味深い。

6月に神戸大学で開催される全国大会は、ビジネス実務教育の専門教育について考察することになるが、本学会の研究の軸である「働く個々人の能力開発」の観点からも議論を重ねたいと考える。

Contents

会長挨拶	1
委員会活動報告	2
ブロック研究会活動報告	
北海道・関東・東北ブロック	3
中部・近畿ブロック	4
中国・四国・九州・沖縄ブロック	5
ブロック研究会研究発表一覧	6～7
2016年度ブロック研究会運営委員一覧	7
事務局からのお知らせ・新入会員紹介	8
第36回全国大会のご案内	8

委員会活動報告

総務企画委員会

委員長 坪井 明彦（高崎経済大学）

総務企画委員会では、ビジネス実務論集規程の改定とビジネス実務論集査読規程の制定について検討しています。詳しくは、2017年6月の総会でご案内します。

研究推進委員会

委員長 大重 康雄（鹿児島女子短期大学）

第35回2016年度全国大会（中部ブロック担当）が6月11日・12日の両日、金城大学・金城大学短期大学部及びANAクラウンプラザホテル金沢で開催されました。

本年度の大会統一テーマ「地域と連携するビジネス実務教育」の下、白山市山田市長のウエルカムスピーチの後、21件の口頭発表と合わせ、本年度より多くの研究発表機会を提供するため取り入れたポスター発表も行い、こちらには16件の研究発表があり盛会に終了いたしました。

9月開催の研究推進委員会では大会実施報告を分析し、次回第36回全国大会（近畿ブロック）に向けて運営方法・プログラム構成等改善案を検討しました。また2015年度JAUCB受託研究報告中間報告（北海道ブロック担当）を再確認し次年度の研究実施内容等の検討も行いました。

12月開催の委員会では、担当の近畿ブロックより詳細な全国大会プログラムの提案があり詳細な検討を行いました。第36回全国大会の統一テーマは「ビジネス実務における専門教育を考える」ですが、これはそもそも「ビジネス実務教育」で育成する能力とは何かを再考する試みであり、本学会の今後の研究領域を再検討する機会でもあります。企業実務の現場ニーズに応えるビジネス実務教育を改めて検討して行きたいと思っています。

編集委員会

委員長 米本 倉基（藤田保健衛生大学）

2016年度もビジネス実務論集第35号を発行しました。今年度は17件の申し込みがあり、うち13件が投稿されました。各論文に対して査読者2名の審査と12月の編集委員会における審議を経て、理論・調査研究分野で2編の論文と1編の研究ノート、教育開発研究分野で研究ノート4編の計7編が審議を通過（修正を条件とするもの、再審査を必要とするものを含む）しました。採択率は54%と掲載は容易ではありませんが、残念ながら不採用の論文におかれましても、審査員の先生のアドバイスをお読み頂き、ぜひ、再チャレンジを期待したいです。特に、今回は、近年少なかった理論・調査研究分野で本格的な論文の提出があるなど、年々学会誌のレベルアップが感じられます。

2017年度（第36号）も7月に投稿申し込みを開始し（8月上旬締め切り）、原稿の締め切りは10月になる予定です。投稿をお考えの先生方は、準備をよろしく願いすると同時に、多くの方からの投稿をお待ちしています。

広報委員会

委員長 和田 佳子（札幌大谷大学）

2016年度も学会報を2回発行しました。会報No. 65には、昨年6月に金沢で開催された全国大会の詳細号として大会プログラムおよび研究発表の概要を掲載しました。本号（No. 66）では全国6ブロックの活動報告を中心に掲載しています。各ブロックの特色を活かした有意義な研究活動が紹介されていますので、今後の研究会企画の参考としてお役立ていただければ幸いです。また、学会ホームページにつきましては、ビジネス実務の研究教育の足跡を蓄積するとともに、本学会の魅力を発信すべく、さらに充実させていきたいと思っています。会員の皆様からの積極的な情報提供やご意見をお待ち申し上げております。

ブロック研究会活動報告

北海道ブロック

■北海道ブロック研究会報告

武井 昭也 (札幌国際大学)

1. ブロック研究会の動向

ブロック会員数はここ数年、入退出がありながらもほぼ30名前後で推移している。6ブロック中最小規模ではあるが、研究会活動に意欲的に取り組む会員が多く、運営は監事を含む10名の運営委員を中心に行なっている。小さい所帯ならではの親密さを活かしながら、さらに活動を活発にしたいと願っている。

2. 2016年度の活動

(1) 総会・講演会

2016年7月2日(土)に札幌国際大学で開催。生活協同組合コープさっぽろ専務理事の中島則裕様にご講演を依頼した。昨年度の株式会社セイコーマート代表取締役社長の丸谷智保様に引き続き、北海道という地域をテーマの一つとしてビジネスの現状認識や研修などについてお話しいただき、研究活動の視野を広げることと、学会研究会の認知、会員勧誘を目的として開催した。

ご講演には昨年同様に会員のほか、学生や地域の方々も加わり、経営方針や社員教育、また、北海道経済や産業の将来について大変有意義なお話をうかがうことができた。

(2) 第14回学生プレゼンテーションコンテスト

2016年12月23日(金)に北海商科大学で開催。4大学10チームの発表があり、応援や見学の学生との質問や意見など充実した内容となった。審査結果は以下のとおりである。

優秀賞 2組(最優秀賞なし)

「巻き込み力の重要性～地域活動から見たもの～」

札幌大谷大学 蝦名佑美さん他2名

「上士幌町観光振興に向けた新たな挑戦」

札幌国際大学 近間友紀さん

(3) ブロック研究会

2017年2月25日(土)に北海商科大学で開催。出席者は11名。研究発表3件、発表終了後にはフリー・ディスカッションの場を設けて意見交換と会場を移しての懇親会でさらに情報交換を行った。

(4) 2016年度「ブロック研究会活動報告書」の発行

例年どおり、「ブロック研究会活動報告書(要旨集)」を年度末に発行し、会員に郵送の予定である。



中島氏の講演



学生プレゼンコンテスト

関東・東北ブロック

■関東・東北ブロック研究会報告

高橋 真知子 (名古屋経営短期大学)

1. 2016年度ブロック研究会の動向

2016年度は、ブロックにとって「挑戦」の年であった。初めての東北地区でのブロック研究会の開催は、2年越しの準備期間をかけ多くの方々のご協力で、近年では最多の参加者による有意義な研究会となった。また、会員の研究活動支援を目的とした公開講座の開催をブロックの公式活動と位置づけて実現することができた。今後も会員と運営委員の協力により、「学び続けるブロック研究会」を目指して活動を進めていきたい。

2. 2016年度の活動

(1) 第1回公開講座

2016年9月3日(土)大妻女子大学で開催。「若い研究者」「これからの研究者」を対象とした「論文の書き方」講座を中村健壽先生に講師をお引受け頂き開催した。全国から参加者43名(非会員17名)による熱気に包まれた半日講座となった。第2・第3弾が期待されるところである。

(2) 総会

2017年2月18日(土)福島学院大学で開催した。飯塚サブリーダーから①2015年度の活動報告・決算報告および2016年度活動計画・予算が提案され承認。②共同研究2件が承認。③研究助成の「共同研究」についてブロック内規を明文化したことが報告された。高橋から④ブロック研究会の開催時期を2月から9月へ変更を検討中であることを報告した。

(3) 第44回ブロック研究会

①基調講演：日本のパフォーマンス学の第一人者である佐藤綾子氏を迎えて「リーダーシップ論～パフォーマンス心理学の視点から～」を広く一般公開講座の形で開催した。地元新聞2社の取材・広報もあり、参加者55名(非会員20名)で大変興味深く盛り上がった。

②発表：共同研究1件、研究発表1件、実践事例報告2件。新会員や久しぶりの会員の方々が充実した発表を行った。

③バズセッション：関心の高いテーマ6件について全員参加で情報交換を行った。

④懇親会：研究会終了後、多数の参加者で和やかに懇親を深めた。

3. 2016年度ブロック会報

2017年3月末を目途に会報をHPに掲載予定である。



佐藤先生の講演



バズセッション風景

中部ブロック

■中部ブロック研究会報告

手嶋 慎介（愛知東邦大学）

1. ブロック研究会の開催

2017年1月28日・29日の2日間、中部学院大学（岐阜県・各務原キャンパス）において、今年度のブロック研究会が開催された。約20名の会員と、プレゼンテーション・コンテスト出場学生7名の参加があり、大変賑わいのある研究会となった。初日には、南山大学教職センター、総合政策学部総合政策学科教授の宇田光先生をお招きして、「講義で実現できるアクティブ・ラーニングー当日ブリーフレポート方式を中心に」というテーマでワークショップを開催。2日目には、愛知東邦大学経営学部地域ビジネス学科准教授の大勝志津穂先生をお招きして、「産学連携による人材育成ー愛知東邦大学×(株)名古屋グランパスエイトの取組を中心にー」というテーマで「特色ある取組事例」報告をしていただいた。どちらも研究会を充実させるものであり、研究発表も2日間・8件に加え「中部ブロック助成共同研究報告」も行われて活発な質疑応答が交わされた。

2. 総会

2017年1月28日、ブロック研究会の最初に総会が開催された。複数回実施された運営委員会報告、平成27年度の会計報告、次年度活動方針等が審議され、満場一致で承認された。

3. 学生プレゼンテーション・コンテストの開催

初日に開催された「学生プレゼンテーション・コンテスト」では、最優秀賞を竹内愛理沙さん（名古屋経営短期大学1年）が受賞し、優秀賞には安藤綾花さん（名古屋経営短期大学1年）と佐木志保梨さん（富山短期大学1年）の2名が、そして奨励賞には橋本怜奈さん（金城大学短期大学部1年）、米原千裕さん（金城大学短期大学部1年）、宮田真里さん（富山短期大学1年）、濱田直希さん（愛知東邦大学2年）の4名が選ばれた。

4. 中部ブロック会報第31号の発行

2017年3月には、ブロック研究会の発表内容等を盛り込んだ「中部ブロック会報第31号」を発行し会員に配布した。



懇親会



学生プレゼンコンテスト

近畿ブロック

■近畿ブロック研究会報告

坂本 理郎（大手前大学）

第53回近畿ブロック研究会が2017年2月19日（日）に大手前大学・短期大学いたみ稲野キャンパスで開催され、参加者は非会員を含む32名であった。今回の研究会は、総会、助成研究最終・中間報告、研究発表、学生によるプレゼンテーション大会、研修会という次第で進められた。

1. 総会

ブロックリーダーより、2015年度活動報告および収支報告があり、さらに2016年度の事業進捗状況および決算予測、2017年度の事業計画と予算案が示された。以上について、参加の全会員の承認を得た。

2. 助成研究最終・中間報告

平成27年度よりの助成研究の最終報告が1件、平成28年度より始めた中間報告が1件あり、今回の報告から、質疑応答の時間が設けられた。

3. 研究発表

個人、または共同研究での研究発表が3件であった。いずれも、長期にわたる研究の成果として報告された。

4. 学生によるプレゼンテーション大会

10回目となる今回は、4組5名の学生が「学生生活の中で、個人またはグループで主体的に取り組んだこと」を共通テーマに、ボランティア活動、ゼミナール、インターンシップ等で学んだことを発表した。評価は会場全員が「内容」「技術」「発表時間」「質疑応答」等の項目に沿って採点し、最優秀賞を1名、優秀賞を1組、奨励賞を2組にそれぞれ授与した。

5. 研修会

「ビジネス実務における専門教育を考える」というテーマで、ワークショップを開催した。これは第36回全国大会と同じテーマであり、ブロック内での議論の啓発と意見収集を目的として実施された。コーディネーターは、京都女子大学現代社会学部の西尾久美子教授が務めた。関西外国語大学短期大学部の高橋克実教授、プール学院大学短期大学部の荻野正美教授、京都女子大学現代社会学部の掛谷純子准教授の順に、それぞれで実施されている専門教育の概要および個々の授業等での取り組みについての報告が行われた。その後、4～5人のグループに分かれてのディスカッションが行われた。その中で、「ビジネス実務における専門とは何か」、「そもそもビジネス実務とは何か」、「ビジネス実務教育はなぜ必要なのか」といった根本的な疑問や、「学生が必ずしも興味を持たない専門分野に対してどのように動機づけるか」、「激変するビジネスの現状に教員がどのようにキャッチ・アップするか」などといった具体的な課題が提示された。



研究発表



学生プレゼンコンテスト

中国・四国ブロック

■中国・四国ブロック研究会報告

佃 昌道 (高松短期大学)

1. ブロック研究会の動向

ブロック会員数は、今現在、約50名前後となっており、6名の運営委員を中心に運営を行っている。

2. 2016年度の活動

2016年8月27日・28日の2日間、中国学園大学において、第33回ブロック研究会を開催した。今回の基調講演は、「株式会社いち」代表取締役社長兼NPO法人タブララサ理事長の河上直美氏をお招きして「地方で新しい仕事を生み出す～若い世代が考えるこれからの働き方～」を開催した。

研究会では、総会、学生プレゼンテーション大会、研究発表が行われ、活発な質疑応答が交わされた。その後の会場を移しての懇親会でも、情報交換を行った。

3. 総会

ブロックリーダーによる前年度(2015年度)の事業報告と会計報告が行われた。さらに新年度(2016年度)の事業計画と予算案が示され、承認された。また、今後の研究会の発展のためのさまざまな提案が行われ、活発な議論を行った。

4. 学生プレゼンテーション大会

学生プレゼンテーション大会は今回で11回目となり、発表者は、仲根百合さん(徳島文理大学短期大学部2年)、宇都宮由依子さん(徳島文理大学3年)、森穂乃香さん(高松短期大学2年)、上瀬梨里子さん(広島女学院大学3年)、梶原千聖さん(中国学園大学2年)、難波拓樹さん(中国学園大学2年)の6名であった。毎年、発表技術が上がっており、先生方の熱心な指導もあり、発表者それぞれに内容・構成等を工夫し、熱意あふれるとてもすばらしい発表となっていた。

5. 運営委員会

2016年度の役割分担について、次年度以降の方策、さらに研究推進や会員数拡大等、今後の課題について検討を行い、再来年の日本ビジネス実務学会全国大会に向けた話し合いを行った。



研究会



学生プレゼンコンテスト

九州・沖縄ブロック

■九州・沖縄ブロック研究会報告

大重 康雄 (鹿児島女子短期大学)

1. 6月の第35回全国大会では、統一テーマ「地域と連携するビジネス実務教育」の下、九州・沖縄ブロック研究会から口頭発表で4件(江藤・所・見館・大重)、ポスター発表で3件(井上・石橋・藤井)あり、ブロック会員が熱心に日頃の研究成果を発表した。尚、北九州市立大学見館先生の研究発表「大学生が地域社会を変革する『地域創成モデル』の開発」は、学会奨励賞(研究発表)を受賞した。

2. ブロック研究会は、これまで年2回主に10月と2月に開催してきたが、オープンキャンパス等行事が繁忙を極め、特に10月開催が厳しく改善を必要としていた。本年度は、2月開催1回とし、その分内容充実を図ろうと試みた。2月開催のブロック研究会のコンテンツを協議するため以下の通り運営委員会を開催し、講演・シンポジウムなどの開催の可能性について話し合った。

3. ブロック研究会開催

- ・日時:平成29年2月18日(土)
- ・会場:福岡市天神 久留米大学サテライトキャンパス
- ・出席:ブロック会員18名(研究発表6名)、ゲストスピーカー4名
- ・研究会プログラム

講演:「急激に変化するビジネス現場が求める大学ビジネス実務教育」株式会社スターフライヤー執行役員兼総務人事部長 山下照彦氏

パネルディスカッション:「ビジネス実務経験者からみた大学(実務)教育の課題」株式会社スターフライヤー山下氏と、同社社員1名・学生代表2名

研究発表等6名・懇親会(17:30~19:30)

今回の研究会全体のコンセプトは、「ビジネス実務教育における企業ニーズはなにか?」という問題意識を持ち、学会の「ビジネス実務研究・教育の目的」にある「働く個人の能力向上に役立ち、ビジネス現場の活性化に寄与すること」を再確認するものとした。そのため内定した学生も交え教育現場とビジネス現場の現状を探る講演とシンポジウムを実施した。シンポジウムでは、講演頂いた株式会社スターフライヤーへ2013年入社の石丸さん、地銀内定者の丸岡さん(鹿児島女子短期大学教養学科)、同じく大手流通会社内定者の坂本さん(福岡工業大学短期大学部)にゲスト参加頂き、見館先生の司会で、学生時代のビジネス実務教育や職業選択へのプロセスを振り返って頂き、大変有意義なシンポジウムとなった。今後とも、地域や事業所と連携しビジネス実務の課題について研究を深めて行きたい。



研究発表



パネルディスカッションの様子

ブロック研究会研究発表一覧

発表タイトル、発表者（所属）／研究領域

■北海道ブロック研究会

1. 「JAUCB受託調査研究「産学連携コラボ」の実践に関する報告～実践内容と実践から得られたインプリケーションを中心に～」、関憲治（札幌国際大学）、高橋秀幸（北海道武蔵女子短期大学）、千葉里美（札幌国際大学）／【1】ビジネス実務教育 3）教育方法の研究
2. 「ホスピタリティに関する時事テーマの導入事例『雇用の未来－コンピューター化によって仕事は失われるのか』論文を学生はどのようにとらえたか」、加藤由紀子（北海商科大学）／【1】ビジネス実務教育 3）教育方法の研究
3. 「研修プログラム開発の方策－保育者養成を足がかりに」、武井昭也（札幌国際大学）／【1】ビジネス実務教育 2）ビジネス実務の教育プログラム開発と教材開発

■関東・東北ブロック研究会

<共同研究>

1. 「情報機器を活用したアクティブ・ラーニングの方策」、岡田小夜子（大妻女子大学短期大学部）、池頭純子（大妻女子大学短期大学部）／【1】ビジネス実務教育 3）教育方法の研究

<個人研究>

2. 「学生アンケートから見るジェンダー観とキャリア教育」、坂本祐子（群馬パース大学）／【1】ビジネス実務教育 1）ビジネス環境とビジネス実務

<実践事例報告>

3. 「女子大学における人材育成の取り組み～人材育成のフレームワーク～」、安齋徹（群馬県立女子大学）／【1】ビジネス実務教育 2）人材育成と能力開発
4. 「地域連携PBLの設計と運営」、山口憲二（いわき明星大学）、金世煥（いわき明星大学）／【1】ビジネス実務教育 3）教育方法の研究

■中部ブロック研究会

1. 「クリッカー活用による診療情報管理士取得教育の取組み」、米本倉基（藤田保健衛生大学）／【1】ビジネス実務教育 3）教育方法の研究
2. 「医療ツーリズムのグローバル展開への可能性－日本とアジア主要国医療ツーリズムの現状・課題の比較－」、米田迪（金城大学）、北潟克輔（金城大学）／【2】ビジネス実務研究 1）ビジネス環境とビジネス実務
3. 「ビジネス実務教育における専門教育」、岡野大輔（金城大学）、奥村実樹（金沢星稜大学）、加納輝尚（富山短期大学）、中原亜紀美（金城大学短

期大学部）／【1】ビジネス実務教育 3）教育方法の研究

4. 「ビジネス実務から考える会計教育－全国ビジネス系学科のカリキュラム調査を踏まえて－」、河合晋（岡崎女子短期大学）／【2】ビジネス実務研究 2）ビジネス環境とビジネス実務
5. 「プロジェクト型教育の継続性に関する意義とその困難性に関する一考察」、奥村実樹（金沢星稜大学）／【1】ビジネス実務教育 3）教育方法の研究
6. 「本学 経済学部におけるビジネス実務教育の取り組みについて」、西川三恵子（九州共立大学）／【1】ビジネス実務教育 1）カリキュラム検討
7. 「診療所が重視する医療事務教育についての一考察」、黒野伸子（岡崎女子短期大学）、河合晋（岡崎女子短期大学）／【2】ビジネス実務研究 2）人材育成と能力開発
8. 「インターンシップの現状と課題－各事例を題材として－」、松崎陽子（金沢星稜大学女子短期大学部）、小里千寿（NPO法人キャリアサポート協会理事長）／【1】ビジネス実務教育 1）カリキュラム検討

■近畿ブロック研究会

1. 「旅行・観光ビジネスにおける『地域限定旅行業』の現状と将来性」（ブロック助成研究最終報告）、中川伸子（神戸女子短期大学）、川島正章（大手前大学）／【2】ビジネス実務の調査・研究 2）ビジネス環境とビジネス実務
2. 「評価されるプレゼンター育成のための教育方法の工夫－演技指導を取り入れることによる効果の測定－」（ブロック助成研究中間報告）、瀬口昌生、酒井健（大手前大学）／【1】ビジネス実務教育 3）教育方法の研究
3. 「大学等における就職筆記試験対策指導の問題点整理」樋口勝一（追手門学院大学）、福井就（大手前学園）、仁平直（神戸国際大学附属高等学校）／【1】ビジネス実務教育 3）教育方法の研究
4. 「伝統文化専門職の人材育成－専門教育と教養教育の視角から－」西尾久美子（京都女子大学）／【2】ビジネス実務の調査・研究 1）人材育成と能力開発
5. 「若手従業員の成長に機能する職場の人間関係とその規定因の探求－造船業A社における調査結果－」坂本理郎（大手前大学）／【2】ビジネス実務の調査・研究 1）人材育成と能力開発

■中国・四国ブロック研究会

1. 「大学の授業における協同作業による展望主義と協同作業認識の変化について—学生の心理特性に着目して—」、吉田順子（広島女学院大学）／【1】ビジネス実務教育 3) 教育方法の研究
2. 「地域と連携した教育活動：阿波踊り学生通訳ボランティアの現場から」、堀口誠信（徳島文理大学短期大学部）／【2】ビジネス実務研究 2) 人材育成と能力開発
3. 「初年次学生のキャリア意識の検討について」、金岡敬子（四天王寺大学）／【1】ビジネス実務教育 3) 教育方法の研究
4. 「産学医農連携事業での地域発のオンリーワン事業と地域活性化—“まびファーム”での活動報告と今後について—」、佐々木公之（中国学園大学）／【2】ビジネス実務研究 1) ビジネス環境とビジネス実務
5. 「男女共同参画の視点に立ったキャリア教育について—大学生を対象とした意識調査結果をもとに—」、桐木陽子（松山東雲短期大学）／【1】ビジネス実務教育 1) カリキュラム検討
6. 「ビジネスの能力向上についての一考察—思いやり行動の基になるボウルビイ等が確立した「愛着理論」を視点として—」、曾根康仁（大阪電気通信大学）／【2】ビジネス実務研究 2) 人材育成と能力開発

■九州・沖縄ブロック研究会

1. 「ビジネス現場の質的变化と新卒採用への影響—土台となる研究と作業仮説—」、大橋健治・天野緑郎（筑紫女学院大学・MC&フューチャーコンサルティング）／【2】ビジネス実務研究 1) ビジネス環境とビジネス実務
2. 「課題解決型授業の改善とその効果」、見館好隆（北九州市立大学）／【1】ビジネス実務教育 3) 教育方法の研究
3. 「氾濫社会におけるビジネス実務教育の一考察（その3）」、北原康司（釜山女子大学）／【2】ビジネス実務研究 1) ビジネス環境とビジネス実務
4. 「短期大学における学修意欲の向上を目指した簿記・会計フィールドの習熟度別クラス編成の取り組みについて」、石橋慶一、藤井厚紀（福岡工業大学短期大学部）／【1】ビジネス実務教育 1) カリキュラム検討
5. 「『薩摩を「雄藩」にした男、浜崎太平次の生涯—如何にしてビジネスの先駆者となったかの一考察—」、松尾裕一（東亜大学留学生センター・留学生別科）／【2】ビジネス実務研究 1) ビジネス環境とビジネス実務
6. 「アクティブ・ラーニングの実践における探索的なアプローチ」、朴熙成（福岡女学院大学）／【1】ビジネス実務教育 3) 教育方法の研究

2016年度ブロック研究会運営委員一覧 ◎はブロックリーダー、○はサブリーダー

■北海道ブロック

- ◎武井 昭也（札幌国際大学）
- 加藤由紀子（北海商科大学）
- 官尾 昌子（北海道武蔵女子短期大学）
- 神野由香里（山本隆行法律事務所）
- 高橋 秀幸（北海道武蔵女子短期大学）
- 田澤 早苗（北海道文化放送）
- 千葉 里美（札幌国際大学）
- 南 聡子（札幌放送芸術学校）
- 森谷 一経（北海道文教大学）
- 和田 早代（札幌国際大学）

■関東・東北ブロック

- ◎高橋真知子（名古屋経営短期大学）
- 飯塚 順一（湘北短期大学）
- 岡田小夜子（大妻女子大学短期大学部）
- 齊藤 裕美（多摩大学）
- 安齋 徹（群馬県立女子大学）
- 大島 武（東京工芸大学）
- 大塚 映（東京経営短期大学）
- 木村 信綱（福島学院大学短期大学部）
- 小松 由美（福島学院大学）

- 澤田 裕美（大妻女子大学短期大学部）
- 坪井 明彦（高崎経済大学）
- 畠田 幸恵（神奈川歯科大学）
- 宮田 篤（青森中央短期大学）
- 藤原 由美（産業能率大学）

■中部ブロック

- ◎手嶋 慎介（愛知東邦大学）
- 加納 輝尚（富山短期大学）
- 河合 晋（岡崎女子短期大学）
- 西川三恵子（九州共立大学）
- 若月 博延（金城大学短期大学部）
- 奥村 実樹（金沢星稜大学）
- 岡野 大輔（金城大学）
- 中川 雅人（中部学院大学）

■近畿ブロック

- ◎坂本 理郎（大手前大学）
- 中川 伸子（神戸女子短期大学）
- 福井 愛美（神戸女子短期大学）
- 野坂 純子（大手前短期大学）
- 加藤 晴美（ブール学院大学短期大学部）

- 樋口 勝一（追手門学院大学）
- 足塚 智志（京都華頂大学）
- 西尾久美子（京都女子大学）
- 兒島 尚子（大阪樟蔭女子大学）
- 仁平 章子（阪南大学）

■中国・四国ブロック

- ◎佃 昌道（高松短期大学）
- 金岡 敬子（四天王寺大学）
- 渡辺 裕一（川崎医療福祉大学）
- 堀口 誠信（徳島文理大学短期大学部）
- 立花 智香（安田女子短期大学）
- 水口 文吾（高松短期大学）

■九州・沖縄ブロック

- ◎大重 康雄（鹿児島女子短期大学）
- 見館 好隆（北九州市立大学）
- 大橋 健治（筑紫女学院大学）
- 藤村やよい（久留米信愛学院短期大学）
- 井上奈美子（熊本学園大学）
- 天野 緑郎（MC&フューチャーコンサルティング）

事務局からのお知らせ

■ビジネス実務論集No. 36について

2018年3月発行予定のビジネス実務論集No. 36の投稿募集は以下のスケジュールで予定しております。みなさまの投稿をお待ちしております。投稿申込期限を過ぎますと受付できませんのでご注意ください。ご質問等は、学会事務局までメールにてお問い合わせください。

2017年7月上旬 はがき、学会HPにて投稿募集のお知らせ

2017年8月上旬 投稿申し込み締切

■転居・所属先変更等ご連絡のお願い

当学会から発行物等をお送りする際には、宅配業者を利用することもあります。そのため、郵便局に転居届をご提出いただいても、宛先不明で学会事務局へ返送される場合があります。会員のみなさまに発行物をスムーズにお届けするためにも、転居もしくは所属先変更の際には事務局あてにご連絡くださいますようお願いいたします。

なお、6月には年会費の請求書をお送りいたしますので、よろしくお願いいたします。

訃報

本学会元会長 和野内崇弘殿（前 札幌国際大学理事長）におかれましては、去る平成28年10月17日、病氣療養中のところご逝去されました（享年84歳）。会員の皆様にお知らせするとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

新入会員紹介 (2016年9月～2017年2月入会承認分)

●正会員

会員名	勤務先	ブロック	会員名	勤務先	ブロック
安藤 香織	芝浦工業大学	関東・東北	中原 淳	東京大学	関東・東北
金 世煥	いわき明星大学	関東・東北	濱野裕貴子	特定非営利活動法人キャリア・サポート協会	関東・東北
小里 千寿	学校法人芝浦工業大学	関東・東北	米田 迪	金城大学	中部
坂井 陽介	資税研株式会社	関東・東北	奥村 命子	大阪人間科学大学	近畿
佐藤 由利	オフィス・ラポール	関東・東北	森本 光	税理士法人越智会計事務所	中国・四国
想田ひろえ		関東・東北	柚木崎千春	南九州短期大学	九州・沖縄

第36回 全国大会のご案内

■開催日時：2017(平成29)年6月10日(土)・11日(日)

■会場：神戸大学六甲台第2キャンパス・農学部（神戸市灘区）

■大会統一テーマ：「ビジネス実務における専門教育を考える」

■大会事務局：大手前大学

■お問合せ先：E-mail/ riro-s@otemae.ac.jp

※大会案内第2号通信は4月7日頃発送予定です。参加申し込みはお早めをお願いいたします。

日本ビジネス実務学会会報No.66

◆発行日：2017年4月1日

◆編集：広報委員会 和田佳子(委員長)・大橋健治・金岡敬子・高橋真知子・手嶋慎介・中川伸子

◆連絡先：日本ビジネス実務学会事務局（札幌国際大学内）TEL 011-807-7176

◆印刷：山藤三陽印刷株式会社 〒063-0051 札幌市西区宮の沢1条4丁目16-1